

問 子供の貧困対策について

答 県の取組を踏まえ検討する

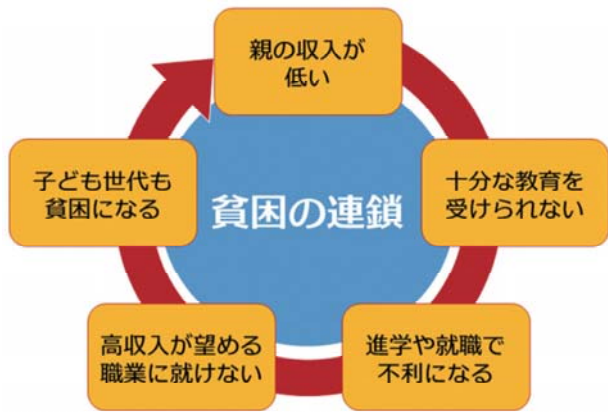


櫻井 政文 議員

**市長へ質問**  
 内閣府の有識者会議は本年8月7日、子供の貧困解消に向けた施策のあり方を公表した。この提言のポイントとして

「自治体による貧困対策の計画策定や取組の促進」が明記されている。そこで以下の所見を伺う。  
**問** 当市における「子供の貧困」の現状把握は。  
**答** 平成30年度は19件あった。

**問** 学校との連携をどのように図るのか。  
**答** 教育委員会を通じて学校との情報共有を図る。子供食堂への支援は。



▲子供の貧困解消は急がれる行政課題



**答** 市内の子供食堂の実施状況を踏まえ、間接的支援等も含め、可能な支援を行う。

小中一貫教育について  
 教育長へ質問

**問** 令和元年第2回定例会で志小田教育長は、今後の市教育行政のあり方について、歴代教育長の基本方針を踏襲すると表明したが、小中一貫教育には自身のカラーを打ち出すとの抱負を述べた。そこで以下の所長を伺う。

**問** 小中一貫教育のメリットは。  
**答** 中1ギャップの解消。学力向上やいじめ、不登校問題、心の教育等に成果が期待できる。

**問** 当市では具体的にどのような形で小中一貫教育を実施するのか。  
**答** 校長会議や教頭会議等で小中連携の意義を指導するとともに、児童生徒の連携、教職員の連携等について指示をする。

問 「ランドセル重過ぎ問題」について

答 登下校時の荷物「置き勉」で軽減



手代木せつ子 議員

教育長へ質問

文部科学省から改善が求められている児童生徒の通学かばん（ランドセル）の重さや量について、現状をどのように把握しているのか。

**答** 9月4日にランドセル、かばんを含めた携行品の重さについて市内8小学校の児童175人、3中学校の生徒36人を抽出して重さを調べた。小学校では体育着を加えると約4・7kg、約5・8kg、中学校では部活動用サブバックを加えると約10・7kgであった。

**問** 成長期の身体に過剰な負荷をかけるのは良くない。ランドセルは軽いからこその頭の上に乗せて防災に役立てたり、すばやく逃げられる。子ども達の健康や安全を第一とすべきではないか。

**答** 小学校では書写や道徳、社会科学の資料集等、中学校では音楽や技術・家庭、美術等の教科書や資料集等、教室のロッカー保管、全校に「置き勉」を統一指導する。  
**問** 学校に教材を置くロッカーの広さは十分か。  
**答** 各小中学校の教室に



▲このランドセル、ちょっと重いです!!

のロッカーは十分間に合っている。  
**夏まつりの今後の在り方について**

市長へ質問

**問** 日本一の夏まつりを目指し市は実行委員会とどのように関わりを持つか。

**答** まつりは政治の原点。市民のためのまつりと捉え実行委員会を後援していく。

